



—町のスローガン—

豊かな自然みんなで

拓く町 伸びる町

- 本町が優良町で全国表彰…………… 2
- 畜産講演会（講演要旨）…………… 3
- 大平雪まつり…………… 4・5
- 秋田県林業グループ活動実績発表コンクール優秀賞受賞発表文…………… 6
- 町長の中国訪問日記（最終回）……… 7



広報

例年に劣らぬ積雪に
大平雪まつりは大盛会

今年も暖冬かな、と思っていたのもつかの間。1月下旬から本格的な降雪となり、連日連夜の降雪で除雪に汗する日が続きました。2月下旬までには例年に劣らない積雪量となり、同21日には今季最高の 113㌢の積雪を記録、降雪量も 586㌢となりました。このため、雪不足が心配された「大平雪まつり」は十分な積雪の中で大盛会を極めました。（写真は素人モデル撮影会のひとコマ・記事4・5面）

3月

いがしゆり

No. 396

題字 / 佐々木青洋氏（東由利町出身）

秋田県町村会

努力の結晶、今ここに！



県町村会長から表彰状の伝達を受ける畠山町長(左・県自治会館)

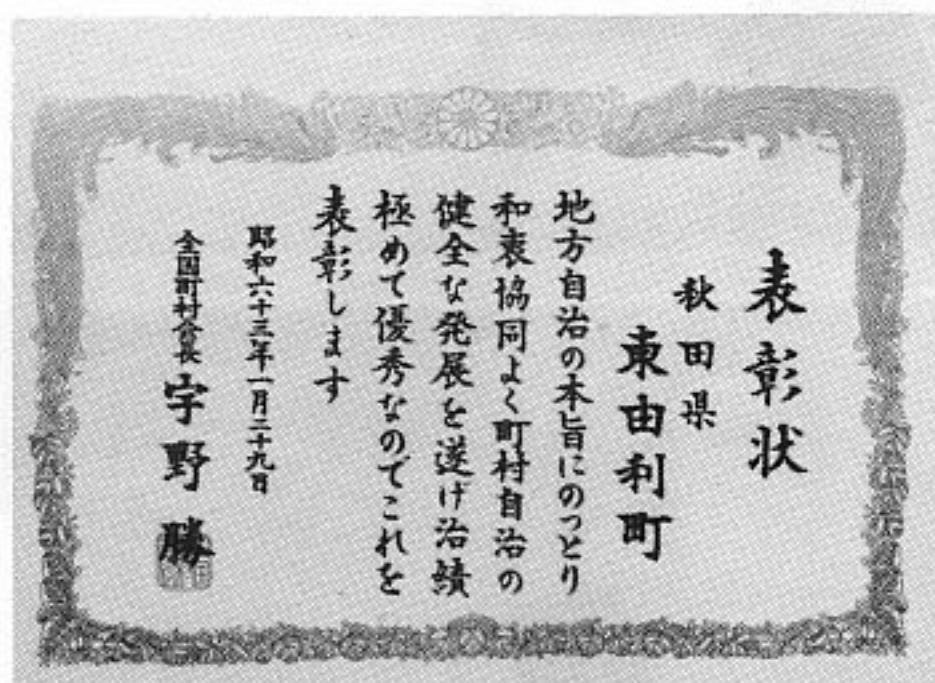
本町が

優良町として全国表彰されました

このたび、本町が優良町として全国町村会より栄えある表彰を受けました。

これは、企業誘致による若者定住の促進、町営特別養護老人ホーム建設による福祉施策の充実、「あきたこまちと由利牛の里」づくりによる地域振興策の確立など、地域活性化が県内外に認められた結果であり、ひとえに町民の皆さんのご努力とご協力の賜にほかありません。

町ではこの受賞を契機に、全職員がなお一層心をひきしめ町政発展に努力することにしていきますので、町民の皆さんのより以上のご協力をお願いいたします。



このたびの全国町村会による優良町の表彰は全国で七十二町村で、秋田県では本町のほか上小阿仁村が受賞しました。

全国町村会から本町に贈られた優良町をたたえる表彰状

受賞の背景

東由利町は、昭和三十年の合併以後高度経済成長期を中心として若者が町外に流出、ピーク時九千人台だった人口が昭和四十五年には六千人台まで減少し、同年には過疎市町村の指定を受けるに至った。このため、若者の町内定住に向け企業の誘致を促進、昭和五十九年には町民の大きな期待のもとに男子型企業「秋田信英(株)」が立地した。当初は八十人足らずの従業員も操業三年目にして一倍以上に拡大、現在は若者の定住とあわせ人口減少に大きな歯止めがかかっている。

また、人口の高齢化が進む中であって、老人福祉事業に積極的に取り組んできた結果、昭和六十一年には町立の特別養護老人ホーム「東光苑」が完成。その運営とあわせ、施設を活用した「在宅老人デイサービス事業」、「身体障害者機能訓練事業」や、「一人暮らし老人給食サービス事業」、「重度身体障害者への移送費の給付」などを実施し、町民の評価を得ている。

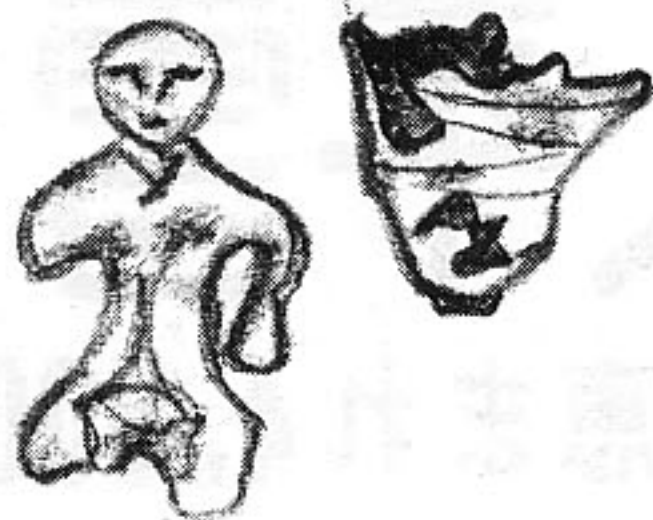
産業は、稲作を中心とする農業が主体であり、昭和四十年の第一次農業構造改善事業

をはじめとして水田の基盤整備を促進、昭和五十九年までにほぼ百割に近い水田の整備が完了し、機械化による近代的な農業が進められている。しかし、近年の農業を取り巻く情勢は厳しく、その減収を補うべく低コスト稲作の確立と良質米の作付けを推進、昭和六十年には県より銘柄米「あきたこまち」の重点栽培地域の指定を受けるなど、良質米栽培が浸透しつつある。また、農家一戸当りの水田面積が平均で一・二畝と少ないことから、畜産との複合経営を推進、その施策として転作田の活用や出羽丘陵開発事業による粗飼料基盤の確立、肉用牛増頭対策事業の実施などにより大きな成果を上げている。

町の面積の約七〇割は山林であることから林業も盛んで、秋田杉や桐の計画的植林のほか、保育・間伐事業の促進や町独自の作業道開設への助成など、民有林に対しても積極的な援助を図り、森林の保全、ひいては自然保護に努めている。町ではスローガンに『豊かな自然みんなで拓く町伸びる町』を掲げ、人と自然が調和した誇れる町土の形成に行政と町民が一体となって取り組んでいる。

仮称・郷土文化伝創館構想

建設は64年度先送り



「広報いがしゆり」二月号でお知らせしたように、町では町過疎地域振興計画、町開発基本構想に基づき、仮称・郷土文化伝創館構想(案)を策定、今年度半ばには財源確保の目途がついたことから町議会との協議会を開催するなど、六十三年度の着工を目指し準備を進めていました。

しかしながら、議員の中には建設についての異論もあり、町では、町づくり計画は大方の賛同が得られない限り実施すべきでないとの判断。二月十六日に開かれた町議会全員協議会で畠山町長は、「議会の建設意向がまとまるまで行わない」と、建設の先送りを明らかにしました。

これにより仮称・郷土文化伝創館の建設は六十四年度以降に持ち越されることになります。

63年度転作等目標面積など配分

水田農業確立対策協同班長会議を開催

六十三年度の転作等目標面積及び同年度から新設される米需給均衡化緊急対策数量を配分する「水田農業確立対策協同班長会議」が二月二十五日有鄰館で開かれ、各自治会の農業協同班長が出席、町が配分方法等について説明し協力を要請しました。

町が示した配分方法は、転作等目標面積については六十二年度と同じく一律二・一・二割の転作率で配分(二・一・五割は他用途利用米)、米需給均衡化緊急対策数量については

▼他用途利用米①飯米農家は配分しない②配分は三十畧単位で行う③水田面積によって全対象農家に配分する

▼その他米①②は前同③水田面積五十畧以上の農家に、水田面積によって配分する④数量と共に換算面積を併記することになりました。

昨年にも増して厳しい状況ですが、ご協力をお願いします。

畜産講演会

町、農協など主催恒例「畜産講演会」が、二月十三日秋田県農協五連会長の佐藤秀一氏を講師に迎え有鄰館で行われました。

演題は「畜産の現状と将来展望、農業・農村の活性化について」で、牛肉自由化の動向などを探るべく、会場には畜産農家など二百人余りが詰めかけ、熱心に講演に耳を傾けました。



佐藤氏は冒頭「日本とアメリカとの貿易摩擦により、農産物の自由化が余議なくされている。今後、為替レートによって国際価格が決定されるならば、日本の農業は厳しさを増し、それなりの防御と努力が不可欠の時代となる」と前置きし、「日本の農産物はなぜ高いのか。それは、かつて全人口の五〇パーセントが農業従事者だったのが今では五・二パーセントに値下りしている。やはりおいしいものはおいしい。今後高級指向の高まりによって、牛肉はやがては外国へ輸出されるであろう」と、和牛生産を推進する本町にとって希望の持てる見解を述べました。

佐藤秀一氏の主な現役職

全国共済農協連副会長、矢島町農業協同組合長理事、秋田県畜産会会長、秋田県議会議員、秋田県農業協同五連会会長、矢島町漁業協同組合長、日本ジャーナリスト登録協会監事、全国厚生連監事、日本海飼料(株)取締役社長、全国家の光協会理事、秋田県農業信用基金協会会長

「秋田魁年鑑」より

今後の農業の課題を提言しました。

最も関心が寄せられる牛肉の自由化問題については、「自由化が実施された場合、ホルスタインの肉が早く影響を受ける。しかし、和牛についてはは一時的な



佐藤氏の話しに、熱心に耳を傾ける聴衆

また講演の中で盤、「畜産の話は米をなくして語れない」とし、「稲作が主体の地域であるならば、それらを命とし、りっぱな評価が得られるよう生産と流通体系を確立する

講演の最後に佐藤氏は、本町があきたこまちと由利牛の主産地化を目指していることについて、時代の先取りであることを提唱し、「今後、農産物の自由化競争の中では味の良いものをつくることが不可欠。うまい米は健康な稲から生れる。そのためには堆肥は欠かせない要素であり、稲作と畜産の複合経営に、力を合わせ今後も努力してほしい」と述べ話を閉じました。

第4回 大平雪まつり

好天に恵まれ4,000人の観客が入場



2日間で延べ4千人の観客が訪れた「大平雪まつり」会場（写真は、始終人並みの途切れなかった出店通り）

出店には、牛もつ、おでん、焼おにぎり、焼とりなど多彩なメニューが登場、胃袋に幸せを運んでくれました



子供たちにモテモテの雪像



「素人モデル撮影会」のモデルさんは町内の独身女性5人。和服の美女を前に、アマチュアカメラマンも緊張ぎみでした

もちつき大会には、おもちゃファンが殺到。2日間で30キのおもちをペロリ



本町の冬の一大行事「大平雪まつり」が二月二十日、二十一日の両日大平スキー場構内で開かれました。この催しは、商工会青年部と連合青年会等が旗揚げし、昭和六十年に第一回目を開催、以後町観光協会が主催し今年で第四回目を数えるものです（第二回は雪不足で中止）。

二十日は、雪上ゲートボール大会、親子スノーボード大会、夜には素人モデル撮影会、どんと焼、たいまつ滑走が行われたほか、初日のフィナーレとして「スターマイン」など本物の火花が打ち上げられ、観客はしばし寒さを忘れ、優雅な冬の火花にウットリとしていました。

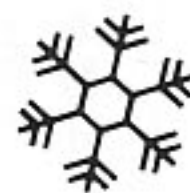
二十一日は、スキー大会、小・中ウルトラクイズ、雪上トライアスロン、本荘・由利鳳あげ大会（協賛）が行われ、豪華賞品に参加者が殺到しました。また両日、農業近代化ゼミナールによるもちつき大会と牛乳サービス、農協青年部・婦人部、連合青年会による牛もつ、おで

ん、焼きとりなどの出店、デイスクジヨッキ、商工会青年部・婦人部による地酒試飲会、森林組合による木製品の展示・製作実演などが行われ、いずれも好評を博したほか、大きなまぐらの中では商工会婦人部が甘酒をサービスして観客をもてなし喜ばれました。このほか「難

波船」「パーマンの滑り台」などの雪像もお目見えし子供たちに人気を呼んでいました。今年の「大平雪まつり」は、前日までの悪天候とはうって変わった好天の中で開かれ、町内外から延べ四千人が入場。多彩なイベントに雪国を満喫し、盛會裡のうちに幕が下りました。



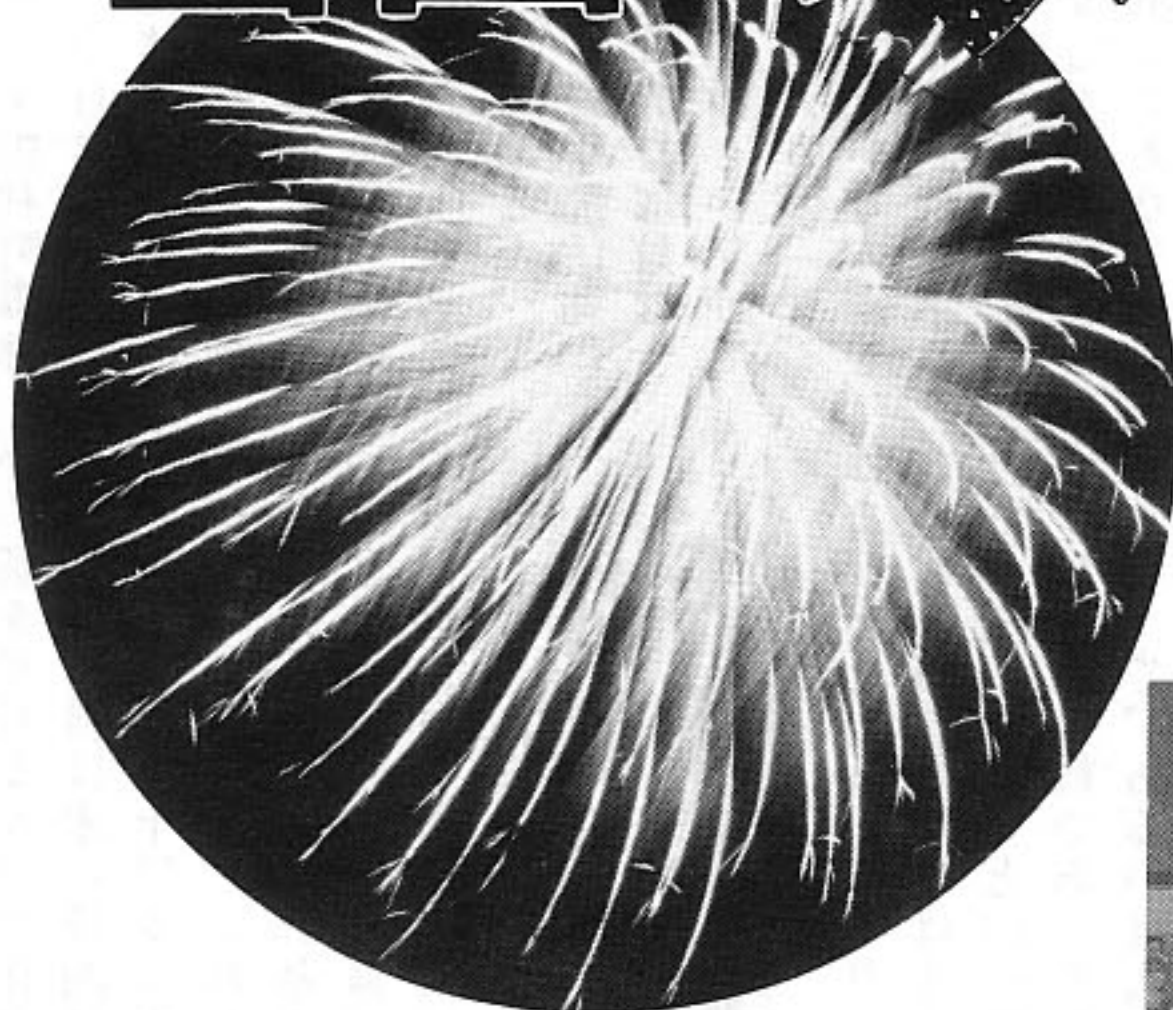
雪国のメルヘン



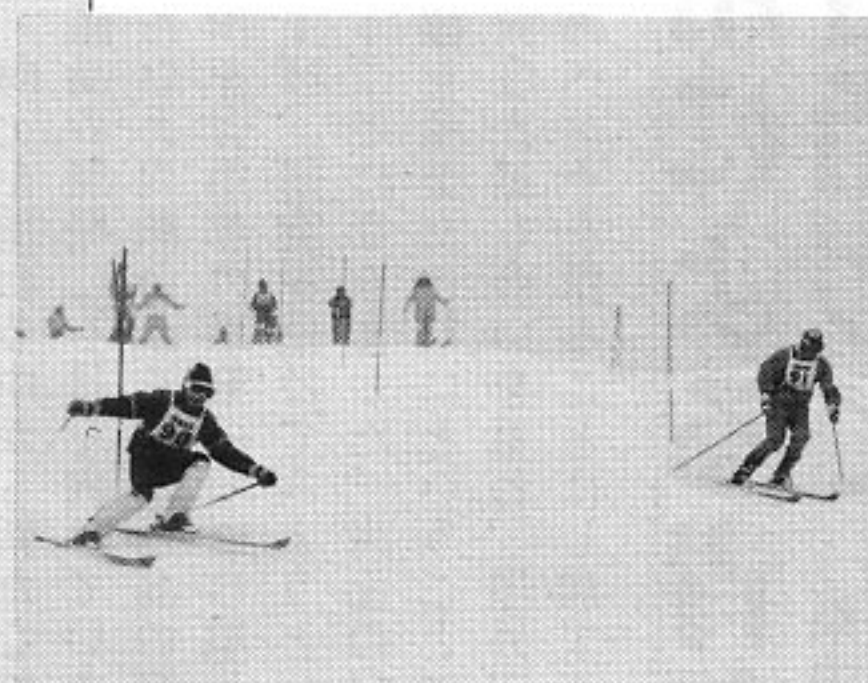
「親子スノーボード大会」には35組の親子が参加。親の体重が大きく影響し、重量のあるチームが有利だったようでした



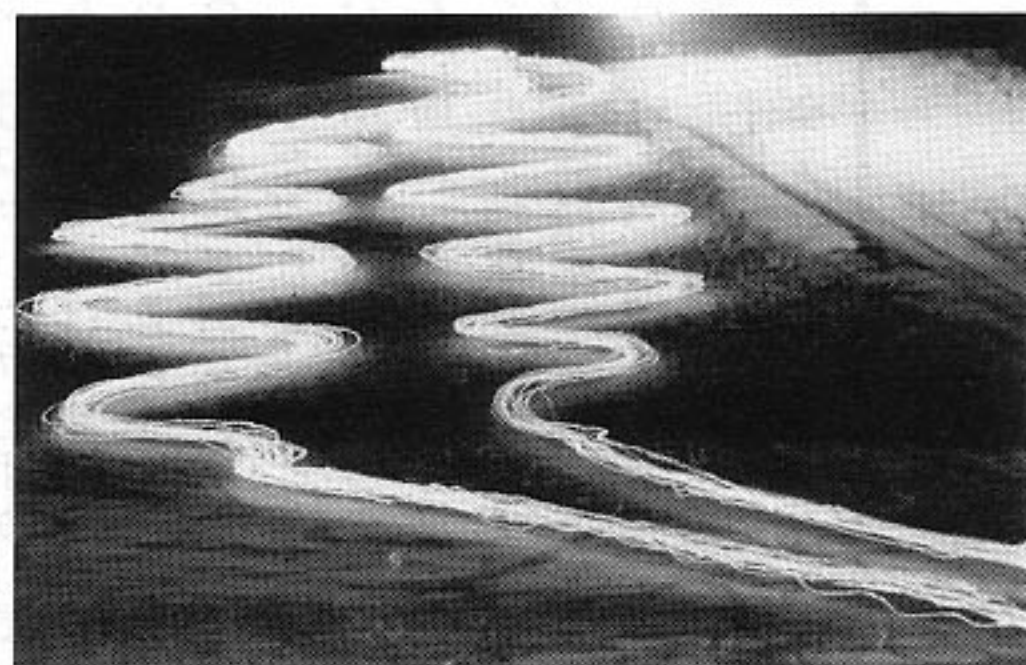
初日のフィナーレを飾った打ち上げ花火は、観客をファンタジックな世界へと誘惑



スキー大会には、小・中学生中心に77人が参加。華麗な滑りで、スピードを競い合いました。結果は左記のとおり



「雪上ゲートボール」には8チームが出場。雪のぬかるみに悪戦苦闘の結果、大琴チームが優勝しました



スキークラブを先導に一般スキーヤー50人が、たいまつ片手にゲレンデを滑走。雪国ならではのポエジーを演出しました



最終イベント「雪上トライアスロン」には、小学生から大人まで40人余りが参加し、滑りや走りに体力を全開させました

スキー大会入賞者(敬称略)

〈大回転〉

▼小学校低学年男子Ⅱ①近江真也(大琴3年) 39秒46 ②畠山広喜(同) 41秒07 ③小野智樹(高瀬3年) 43秒79
▼同女子Ⅱ①小林由紀子(高瀬3年) 42秒38 ②鈴木美沙(大

琴2年) 42秒96 ③高橋恵(同3年) 43秒19
▼小学校高学年男子Ⅱ①大庭朋和(大琴5年) 32秒41 ②畑山敦(同) 33秒66 ③小松喜恒(高瀬5年) 35秒27

▼同女子Ⅱ①小松蘭子(高瀬5年) 34秒11 ②小野智子(大琴4年) 35秒10 ③石綿真紀(同) 37秒62

〈回転〉

▼中学校男子Ⅱ①佐々木克仁(3年) 28秒04 ②畑山清和(1年) 28秒84 ③阿部清隆(2年) 30秒08
▼一般Ⅱ①武田秀夫(須郷) 33秒21 ②小野孝悦(新町) 34秒17

〈タイムは2回計〉

▼小学校高学年Ⅱ①佐野善隆(高瀬6年) 1分07秒01 ②大庭朋和(大琴5年) 1分12秒15 ③畑山敦(大琴5年) 1分12秒50
▼同女子Ⅱ①小松蘭子(高瀬5年) 1分16秒21 ②小松由佳(八塩6年) 1分16秒30 ③志

村多栄子(高瀬4年) 1分31秒05
▼中学校男子Ⅱ①畑山清和(1年) 57秒01 ②志村宗篤(同) 1分00秒14 ③阿部清隆(2年) 1分00秒46
▼一般Ⅱ①小野孝悦(新町) 1分13秒96 ②武田秀夫(須郷) 1分31秒74

秋田県林業グループ活動実績発表コンクールで、本町森林組合青年部部长・小笠原豊和さんが優秀賞に選ばれました（受賞の記事八面に掲載）。ここではその発表文をご紹介します。

昭和五十六年に、森林組合員後継者の森林及び林業への関心を高め、お互いの交流を深めようと発足した我が東由利町森林組合青年部は、今日までその目的に沿って先進林家、先進森林組合を訪問しての研修、林業教室への参加、木材流通センターの見学、枝打ち間伐講習、林業機械の現地講習などを主な活動として行つてまいりました。

さて、現在我が青年部活動に参加している実質的な部員は十三名で、いささか淋しい気がしないでもありませんが、「ま、こんなものかな」というのが心境です。こうした中で、昨年森林組合が補助事業で木材加工所を開設いたしました。設備については資料に示してありますように、木材乾燥機、木工ろくろ自動かんな、ボール盤等が設置されてあるのですが、利用されない日が多いというのが実情のようです。なお、当森林組合では、六十一年度から四年間で延べ五百畝の間伐事業を計画実施していることから、木材加工所を利用して青年部としても何か間伐材を使って作ってみたいものだな、との声が起こってまい

りました。六十一年の初夏のころでした。

様々なアイデアは出るのですが、いきなり向かうには技術的に無理なものばかり。そんな中に「現代林業」が何かで紹介されていた「三角ウマ」がありました。これならできそうだった。これになり、九月に入ってから八名ほどの仲間が集まって大六基を半月がかりで作りました。材料は末口径四センチか五センチ、長さが百二十センチから百八センチ程度のものです。これを町内に三校ある小学校に二基ずつ贈ったところ思いのほか喜ばれ、多少自信というか「捨てたもんで

小径木活用 活性化を図る



「三角ウマ」を製作する町森林
組合青年部員（61年9月）

小径木活用による青年部活動の活性化を目指して

東由利町森林組合
青年部部長 小笠原 豊和

て喜んでくれる、役にたつということを知ることができた訳です。そして六十二年度。道のりは遠いと思うのですが、間伐材の付加価値を高め、数十年手入れた木が捨て切りされるといいう理不尽な状態を打ち破るため、さらには、お互いに技術の錬磨・向上を重ねる中から新たな特産品の開発にも目を向けていきたいとの願いから、木工品の製作を青年部の事業の一つに取り上げ、研究を続けてみようということになりました。当面の目標を産業文化祭にということでは、何度か話し合いを重ね、屋外用のベンチを作ることにし加工所

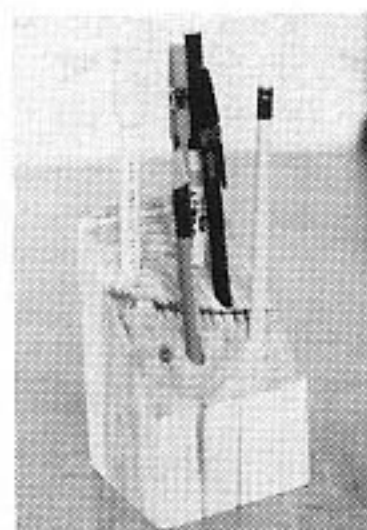
し、豪華賞品を準備しての丸太切り競争もやってみました。親子工作は用意した五十基分で足りないくらいの盛況ぶり、初めての試みとしては大成功だったと思っています。丸太切りについて、男女合わせて六十名ほどの挑戦者がありましたから、やり方を工夫しながら今後へつなげていきたいと考えております。

今年度新たに実施した活動を振り返るとき、人は木または木材に、さらには山に、大きくは自然にということになりました。うか、自分の方から係わってきたいという欲求を潜在的に持っているのかなと、改めて思い

に備えて、そこで行われる各種イベントの賞品の製作に現在取りかかっているところです。



加工材として、杉材を利用している。林産物の活用、施設間の連携。



る各種
に現在取

に集まったまでは良かったのですが、それまでに木工機械を操作したことのある者はいないし、見るのも初めてという具合で、悪戦苦闘の末六時間くらいかかってどうにか二つのベンチを作り上げました。

産業文化祭に展示してみたところ、関心を持って見てくれる人が多かったように見えたのですが、コマージュナルに問題があったのか受注には至っておりません。このほか親子工作として一寸五分の角材を使った竹馬のようなもの、木馬と名付けましたが、これを作ってもらいました。

直した次第です。というのは、木製とスチール製のベンチでは木製の方から利用されますし、椅子とテーブルでも同様、また作り方さえわかればノコギリ、金づちを手にしてくれるし、丸太切りからでた木片でさえ「もらってもいいか」と聞く人がいるといった調子だったからです。

現在「もつとグループ以外の人たちにも関心を持つてもらえるような、目先の変わったこともこれまでのことに加えてやっていこう」と考え、今月二十日二十一日に町のスキー場を会場に開催される「大平雪まつり」

くるであろう発想やアイデアを大切にし、小径木利用ということを基本にしながら、エクステリアからログキャビン、ひいてはログハウスと手がけていくようになれば、加工所の設備を活かせることになりまし、間伐材の捨て切りを減らすことにもつながります。そして、我々青年部への関心も高まり、部員も増え、より活発な活動が展開され、特産品としてあるいはヒット商品が生れることも夢ではないものと考えております。

◇ ◇

掲載文は、紙面の都合により発表全文のうち一部を割愛しています

古都西安を経て近代上海へ

親善・友好の旅終わる

日中友好の旅を無事終える（知事、県議長と上海・錦江飯店にて）

みなさんの地域の、話題、出来事などお知らせください。必ず取材にでかけます。めずらしいことやおもしろいことは新聞やテレビに紹介します。(広報係)

強風で糸切れの凧続出

全町たこあげ大会



強風にもめげず、必死に風をあやつる参加者

2月7日大琴地区の水田で第2回全町たこあげ大会が開かれました。本町のたこ風が同好会（石綿民喜会長）が、町内の子供会などに参加を呼びかけ、本荘市と横手市の風同好会の協力を得て開いたもので、今冬一番と思われる吹雪にもかかわらず、会場には地区の大人や子供を中心に50人余りが自慢の手造り風を持ち寄りました。しかし、折からの強風で糸切れする風が続出、逃げ回る風を必至で追いかける人や、ほかの風に糸が絡まり

四苦八苦する人など、てんでこ舞のたこあげ大会となりました。入賞者は、強風にめげずに頑張った次の方々です（敬称略）。

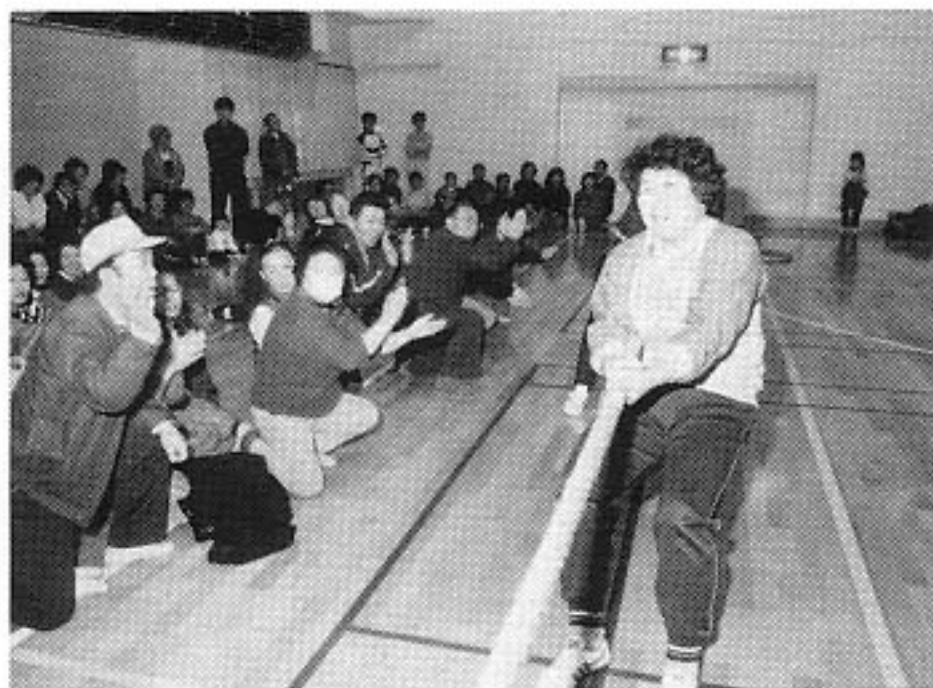
小学生の部▼優秀賞Ⅱ佐々木晃子（大琴）、梅津かおり（同）、阿部一成（同）、梅津新平（同）

中学生の部▼優秀賞Ⅱ佐々木奈穂子（大琴）

一般の部▼最優秀賞Ⅱ木島久志（蔵）▼優秀賞Ⅱ佐々木邦夫（大琴）、梅津真子（同）、佐々木清子（同）、阿部清佐（同）、佐々木昭男（同）、阿部キエ（同）

町民室内綱引き大会

栄冠は新町と
横小路に
(女子)
(男子)



接戦の女子の部決勝戦、横
小路対蔵戦

第1回町民室内綱引き大会が2月6日午後6時30分から健康増進センターで開かれ、8人を1チームに自治会や有志など男子10、女子8チームが参加、男女別トーナメント、3本引きにより熱戦を展開した結果、男子は圧倒的な強さで新町が、女子は横小路が決勝で蔵と接戦のすえ栄冠を手にししました。会場には選手のほか家族など応援団も百50人余りが詰めかけ、男女交互に行われる綱の引合いに「よいしょ、よいしょ」の力強いかけごえで声援を送りました。

競技が終わり会場の隅からは「日ごろのストレスが解消した。冬季行事として他の大会も開いてほしい」、「暖房がよく利いてとても暖かい。ぜひ家族で遊びにきたい」などと話す声が聞こえるなど、同大会の成功と共に、相乗効果も現れた大会となりました。

降雪と寒さが続いていた2月17日、本荘高校下郷分校の生徒が、ひとり暮らしのお年寄りを訪問しました。これは、町社会福祉協議会の呼びかけに応え同校1、2年生40人が、館合、老方、蔵地区の10人のお年寄りに雪見舞いに訪れたもので、手みやげに老人クラブ連合会婦人部がこしらえた甘酒や、漬け物を持参。町の福祉バスでそれぞれに分散した高校生たちは、連日の降雪でいっぱいになった家のまわりの除雪をしたあと、家の中に入り会話でお年寄りを慰問しました。会話では学校や家のこと、昔の生活や遊びの話しがでるなど、日ごろ一人でさみしい生活を送っているお年寄りにとって、心のなごんだひとときとなりました。

高校生が、ひとり暮らしの
お年寄りを雪見舞い

除雪や会話、甘酒の手みやげも



連日の降雪でいっぱいの子の家のまわりの除雪に汗する高校生たち

商工会役員・青年部長が
全国商工会連合会長表彰

このほど東京渋谷のNHKホールで開



表彰状を手に、受賞を喜ぶ
小笠原さん(左)と町森林組
合の浅田照信さん(右)

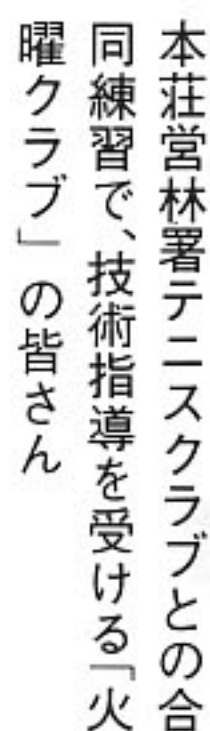
同コンクールでは県内各ブロックの代表8人が参加・発表しましたが、小笠原さんは間伐材の利用や特産品の発掘など、より身近で地域に根ざした活動の展開を紹介したことが審査員の高い評価を得ました（発表文6面に掲載）。

同賞の受賞に町森林組合など林業関係者は、「低迷が続く林業事情にあつて受賞は大きな励み。後継者不足が大きな悩みとなつている折、一つのステップになつてほしい」と口をそろえて話しています。

小笠原さんが優秀賞を受賞
地域に根ざした
活動に高い評価

秋田県林業グループ活動実績発表コンクールが2月4日秋田市大町の協働社ビルで開かれ、本荘市由利郡を代表して本町森林組合青年部部长の小笠原豊和さんが「小径木の活用による青年部活動の活性化を目指して」をテーマに発表、厳正な審査の結果みごと優秀賞に選ばれ、佐々木知事から表彰状と金一封が贈られました。

「火曜クラブ」発足



「ぼくたちこんど1年生です」
今年の新入学児童は68人

八塩小	〔泡の渚〕	小松 郁美
〔葎沢〕	横山 秀之	〔石 高〕
阿部かすみ	〔時雨山〕	長谷山哲也
高沢 智幸	佐藤 裕美	〔家の下〕
高沢 照明	〔田 代〕	小松 渉
〔向 田〕	渡辺 正明	〔下小路〕
横山喜代子	渡辺 寛子	遠藤 宗徳

小松 喜美	高橋 元太
〔宇戸坂〕	〔新沢〕
小松 修子	佐藤 郁絵
畑山 和幸	〔館合新田〕
〔五海保〕	小野まなみ
嶽石 嘉実	畠山 孝行
〔板戸〕	〔須郷田〕
小松 誠	小松 史
〔松柴〕	小松 輝臣
小松恵里子	柴田栄美子
小松佳奈子	高瀬小

(新町)	伊東 結子	小松 徳彦	寅田 文和	(横小路)	小野 昭枝	古関 郁実	(中通)	佐藤 加奈	長谷山 未来	(下通)
佐藤 孝憲	小松 利史	(湯出野)	佐藤 順哉	(寺田)	畠山 良子	(祝沢)	小笠原秀典	佐藤 義則	(上里)	小野 加代
小野 聖司	(横渡)	小笠原陽子	(岩館)	伊東 務	伊東 綾子	(蔵)	阿部 将大	遠藤 一博	(蔵新田)	伊東 喜隆

小笠原晴彦	小笠原裕樹	島	畑山 治樹	新	遠藤 亮太	工藤 晴香	十二の前	阿部 文恵	遠藤 翼	小松 愛子
小倉	高村	伊東麻理子	工藤恵理佳	大琴小	袖山	鈴木由賀利	大琴	浅田 隆行	大庭 秀樹	
佐々木哲也	下吹	畑山 淳子	小野 学	佐藤 新	沼	鈴木 誠也	畑村	高橋 美香		

部員20人が手分けして校舎や備品を修繕(写真・東中)

「真心こもった社会奉仕」として毎年好評を博し、関係者から喜ばれている本町建設技能組合青年部（佐藤和彦部長）の労力奉仕作業が、今年も2月13日町内小・中学校の校舎や備品を対象に行われました。これは、「自分たちの技術が少しでも社会に役立てば」とする同青年部が10年以上も前から行っているもので、材料代の実費を除き労力を無料で奉仕。今年も、破損した校舎の壁や天井、棚、机、椅子などの修繕、塗装作業に、20人の部員が手分けしてあたり汗を流しました。

この日は各校あわせて36件の物件が修繕され、廃品同然の物件を見違えるほどに更生した同部員に、先生や児童・生徒は「さすがはプロ。ありがとう」と、感謝の声をかけていました。

県内で風呂の空たきによる火災が多発しています。原因は、浴槽内の止め栓がはずれていたり、止め栓からの漏水などです。風呂に水を入れる前には止め栓がしっかりかかっているか確かめ、また水を入れた後でも、水が漏れていないことを確かめてから火をたきましよう。

かれた第27回商工会全国大会で、本町商
 工会長の小番銚平氏（家の下）、同理事
 の伊東知也氏（蔵）が役員功労者として
 また、同青年部部長の佐藤知泰さん（宇
 戸坂）が青年部功労者として全国商工会
 連合会長より表彰されました。

小番氏は昭和41年から、伊東氏は同38
 年から町商工会役員として長年町商工振
 興に貢献しています。また佐藤さんは、
 商工会青年部組織の充実・強化の実践と
 「黄ざくらまつり」や「雪まつり」など
 町活性化のためのイベントの草分けを担
 うなど、地域に根ざした活動を展開して
 いることが高く評価されたものです。

ヤングレポート

方産業

④



小野 一志^{ひとし}くん・須郷田
21歳・利一さん長男

「見た感じ、こわそうに見られますけど、ハートはとても暖かです」と、自己アピールしてくれる一志くんは、町内の縫製工場「老方産業」に勤める、フレッシュヤングマンです。

雄物川高校を卒業後、社会勉強を兼ね千葉県に短期就職したこともあり、「むこうでは自炊で、食事にはことを欠きました。

故郷に帰って「おふくろの味」にありついたときは、感激でいっぱいでした。いい勉強になりましたが、やっぱり家族のいる、自分の家はいいです」と、帰郷当時の感激を思い浮かべ、しみじみと語ってくれました。

「趣味はドライブとパーソナル無線。夢は全国を車で一周すること。一番楽しいときは、無線でクラブの仲間と交信しているときです」と、ヤングマンぶりを発揮するかたわら、「何事も他人に負けないよう努力することがモットーです」と、心の強さを伺わせてくれます。

「学生時代はかなり、ツッパリしてましたから、女友達はいません。背が高く、自分にも他人にも思いやりの持てる女性、理想の結婚相手です。どなたかい人いませんか」と、いま、ガールフレンドさがしに躍りとなっている一志くんでした。

みんなのひろば



絵・ささきてつやくん
6さい・えいけい保育園

わたしのおかあさん

ちびっこの国



— テーマ —

「この町大すき」

小松美鈴さん
高瀬小・2年

わたしたちの町には、冬、雪がたくさんふります。でも、わたしは、雪であそんだり、スキーができるので、冬は大すきです。

わたしたちの町には、大平スキー場があって、いつでもつれて行ってもらって、すべれるので、いいなあと思います。

雪がたくさんつもっても、朝早く、町のおじさんたちが、ブルドーザーで雪をよせてくれるから、わたしたちは、元気に歩いて学校に来ることができるし、風の強いところには、風よけのあみをはってけているので、あん心して歩けます。

わたしのねがいは、ぶらくにゆうえん地があればいいなあということです。そうすれば、みんなでなかよくあそべるからです。

冬は、さむいけど、春、夏、秋は、山がきれいで、空気もきれいな東ゆり町をわたしは、大すきだと思っています。

国民年金

保険料は納まっていますか

国民年金の保険料を滞納してしましますと、万一の事故のときに障害基礎年金や遺族基礎年金などを受けられない

ばかりか、将来老齢基礎年金さえ受けられないこともあります。納め忘れなどないかも一度お確かめください。

四月から三百円引き上げ

これまで国民年金の保険料は月額七千四百円でしたが、

ください。

この四月から三百円引き上げられ、月額七千七百円になります。納め忘れのないよう、毎月の保険料の納付にご協力

なお、保険料は一年分をまとめて前納すると、年利五・五割の率で割り引きになります。詳しくは役場年金係にお尋ねください。

所得税

確定申告はお早めに!

昭和六十二年分所得税の申告と納税は、もうお済みでしょうか。申告も納税も三月十五日までです。必ず期限内に済ませてください。

なお、所得税の申告相談が今月二日、三日、四日、七日、午前は九時から十一時、午後一時から三時まで、役場会場に行われます。

4月1日から

受給資格が変わります

児童手当

昭和六十一年から児童手当法が段階的に改正されてきました。が、四月一日から完全実施となり、児童手当の受給資格が最終的に次のように変わります。

〈受給資格〉 義務教育就学前（小学校入学前）の児童を含む十八歳未満の児童を二人以上養育しているかた。なお、義務教育就学前の児童には、病弱や発育不全、その他やむを得ない理由により、就学が困難と認められ、現に就学していない児童が含まれます。ただし、昭和六十一年分源泉徴収票の「給与所得控除後の金額」が、表1の「所得限度額」と表2の「加算額」との合計を上回るときは受けられません。

〈支給額〉 二番目の児童には月額二千五百円、三番目以降の児童には一人につき月額五千円が支給されます。

〈三月中に手続きを〉 三月三十一日（木）までに手続きをしないと四月分から支給されませんが、これを過ぎると、手続きをした月の翌月分からの支給になります。なお、現在児童手当を受給しているかたは、新たに手続きをする必要はありません。

〈手続きに必要なもの〉 ①印鑑②父親名義（母子家庭の場合は母親名義）の預金口座番号の控え（ただし、東由利農協または矢島信用金庫東由利支店の口座に限りません）③厚生年金に加入しているかたは年金手帳と健康保険証、共済組合に加入しているかたは組合員証

〈問い合わせ〉 役場住民係 ☎ 2110 内線53

表1 昭和63年度所得限度額

(6月1日から)

国民年金加入または年金に未加入のかた		厚生年金・共済組合に加入のかた	
扶養親族等数	所得限度額	扶養親族等数	所得限度額
0 人	142,4万円	0 人	342,5万円
1	172,4	1	372,5
2	202,4	2	402,5
3	232,4	3	432,5
4	262,4	4	462,5
5	292,4	5	492,5
6	322,4	6	522,5
7	352,4	7	552,5
8	382,4	8	582,5

※申請者（児童の父、母子家庭の場合は母）1人の所得で比較します。ただし、限度額には社会保険料相当額（定額8万円）を加算しています。

表2 加算される種別と加算金額

所得限度額に加算される種別	加算金額
老人控除対象配偶者または老人扶養親族がある場合	1人につき6万円
雑損、医療費、小規模企業共済等掛金控除がある場合	控除相当額
申請者が老年者、寡婦(夫)、勤労学生である場合	25万円
申請者または扶養親族中に障害者・特別障害者がいる場合	1人につき(障)25万円(特障)33万円

青色申告の申請は3月15日まで

商業、農業、自由業などを営む人、不動産の貸付や山林の伐採・譲渡による所得のある人等は、「青色申告」を利用することができます。青色申告をすれば、いろいろな有利な取り扱いが受けられることから、最近では農家の方の利用が増えています。

新たに青色申告をしようとする人は、三月十五日までに「青色申告承認申請書」を税務署に提出しなければなりません。青色申告について詳しいことを知りたい方や申請書の必要の方は、町商工会が「青色申告会」の事務局となっておりますのでお問合せください。

利子非課税制度の改正

利子の非課税制度、いわゆるマル優等の制度が昭和六十三年四月一日から変わります。

新しい制度では、マル優、特別マル優、郵便貯金の利子非課税扱いが、次のような人やこれらの人に準ずる人などに限って利用できます。

- ①六十五歳以上の人。
- ②遺族基礎年金を受けられることができる人。
- ③寡婦年金を受けられることができる人。
- ④身体障害者手帳の交付を受けている人。

新・利子非課税制度の種類と内容

お年寄りの場合		
種類	非課税限度額	内容
マル優	300万円	銀行などの預貯金、貸付信託、公社債、公社債投資信託など
特別マル優	300万円	利付国債、公募地方債
郵便貯金	300万円	
サラリーマンの場合		
種類	非課税限度額	内容
財形住宅貯蓄、財形年金貯蓄	合わせて500万円	サラリーマンの給料からの天引預金

新制度の適用は四月一日から

新・利子非課税制度の種類や内容などは表のとおりで、これ

以外の利子所得は原則として一律二〇パーセントの源泉分離課税となります。したがって従来の総合課税制度、三五パーセントの源泉分離課税制度、確定申告不要制度は廃止されます。

非課税制度の利用には

手続きが

必要です

新マル優などを利用する方は、

非課税対象者に該当する旨の確定申告を受けるほか、住民票の写し、保険証、年金手帳など一定の公的書類を金融機関の窓口へ提出して、住所、氏名、生年月日の確認を受けることが必要です。また、六十三年三月三十一日以前にマル優などを利用しているお年寄りなどが、引き続き非課税制度を利用する手続きは、遅くとも六十四年三月三十一日までに一定の手続きを済ませる必要があります。預貯金先の金融機関などに相談してください。



④

心がなごむ、故郷の 変わらぬ人情と自然

今井 マツさん

(下小路出身・48歳)

故郷の皆様、お元気でお過ごしでしょうか。



暖冬で正月には全くなかった雪も、小正月過ぎから例年に劣らない降雪が続いたと聞き、さぞ雪おろしなどの苦労が多いことと、心からお見舞い申し上げます。

私の子供の頃は、冬になると、かまくらを作ったり、竹スケー

トや箱ぞりに乗ってよく遊んだものでした。それから、今でも懐かしく忘れられない思い出は、馬そりに乗って本荘へ受験にいったことです。昼頃に、大琴農協で一休みさせていただいて食べた、大きなおにぎりの味は格別でした。今では、冬でもわずかに一時間半ほどで往来できるようですが、馬そりが唯一の冬の交通手段だったその当時は二日かかりの往来で、今のよう便利になることは、誰にも想像がつかなかったことです。

故郷の出来事や、町の人々の様子を、毎月の「広報ひがしゆ

り」で拝見させていただき、ほんとうに感謝しています。私も、ここ川口市に住んで二十年になりますが、ずいぶん様変わりをしました。都心に近接していますから人口も急増し、その数は現在四十二万人と県下一です。また、埼玉県表玄関として、今盛んに駅周辺の大規模開発が行われています。

川口市は、昔は鑄物の町として有名で、夜になるとキューポラの火があちこちに見えたものでした。しかし、今では時代の波に押し流されて、鑄物工場も消え、マンションの立ち並ぶ住

宅都市へと変貌してしまいました。

さて、近年になって帰省する機会も多くなり、故郷東由利町の発展には目を見張るものがあります。しかし、故郷の皆様の人情と自然の変わらぬ姿は、いつまでも私の心をなごませてくれます。

これからの、町のなごみ層の発展と、町民の皆様のご健康とご多幸を心からお祈りし、筆を置きます。

◇ お住い▼埼玉県川口市飯塚二丁目 三十一一四〇三

国民年金の老齢基礎年金は六十五歳から受けることにな

っていますが、本人の希望により六十歳から受給を繰り上げて請求できます。

しかし、繰り上げて請求した場合、表のように年金額が減るなど、次のように色々と不利な面が出てきます。

繰り上げ請求は こんなに不利です

- ① 請求時の年齢により年金額が減らされ、一生減額された年金をもらうことになります。
- ② 過去に厚生年金等の加入期間のある人は、六十歳～六十五歳までの間受けられる特別支給の老齢厚生年金等が支給停止されます。
- ③ 請求した後で障害者になっても、障害基礎年金を受けられ

老 年 基 礎 金

繰り上げ請求は よく考えて!!

⑥ 繰り上げて年金をもらっている途中で、取消しや変更はできません。

繰り上げ請求は 慎重に

本町の場合、繰り上げ受給

代」といわれますが、長い老後の生活を楽しく、心豊かに過ごすためにも、繰り上げ請求は慎重に考えたいものです。年金について、おわかりにならないことがありましたら、役場・年金係にご連絡ください。☎ 69・2110・内線52番

繰り上げ請求した場合の年金額と受給総額 (62年度価格)

請求年齢	支給率	年金額	70歳までの受給総額	72歳までの受給総額	75歳までの受給総額	80歳までの受給総額
60歳	58%	363,400円	363万円	436万円	545万円	726万円
61歳	65%	407,200円	366万円	448万円	570万円	773万円
62歳	72%	451,100円	360万円	451万円	586万円	811万円
63歳	80%	501,100円	350万円	451万円	601万円	852万円
64歳	89%	557,600円	334万円	446万円	613万円	892万円
65歳	100%	626,500円	313万円	439万円	626万円	939万円

子育てにもっと議論を!

保健婦・小松友子

どこかしら春のきざしが感じられ、厳しい冬もあともう少しといった感じのこの頃です。

さて一月か二月に行われる健康大学といえは育児学級と併せた母子保健講座が恒例のようになりました。

去る二月十日の健康大学も県中央児童相談所から講師を招き、日頃の子育てをふり返る機会を得ました。そこで



若さの秘密

わたしの場合

映画評論家

小森 和子

正直いって、みなさんにおすすめる健康法ってないのよね。ひと言でいえば、流れるままに、といいましょか、自分の気の向くままに、自由に生きるってことかしら。

オバチャマ、扶養家族もな

いかわり、まったくの天涯孤独でしょ。だから働かないで、のんびんだらりとしていて、なんてのは、とっても性に合わないの。死ぬまで現役でいることが、若さの秘訣だと思ってる。

野菜中心の和食

考えてみると、この年になるまで、自分の好きなことだけやって、わがままに生きてこられて、ほんと幸せだと思

うの。いま、十七歳になるマルチーズのココとふたり暮らしで、粗食で少食を守りぬいた

粗食と少食で 体重は二十代から変化なし

してしょ。だから食事もいたって気の向くまま、腹時計がクツとなったら、それじゃ、ごはん食べようかな、って調子なんです。ええ、原稿書きで忙しいときは、一日一食なんてこともありますよ。

でも、そのほうが、からだに楽なの。それから、若い時分から、粗食で少食がモットーなんです。お肉をムシヤム

年はとるものでなく いただくもの

五十八歳のとき大病（卵巣のう腫）をして、二度の手術を受けたとき、アー、これでもう一巻の終わりかと思つたのに、不思議と生き残っちゃったのね。

からだと思うのよね。

あとは、果物をできるだけいただくようにしてます。寝る前に、レモンをしぼって、これにはちみつを入れて飲むんだけど、翌朝、とっても目覚めがいいですね。

それで、このごろしみじみと思うの。人間は、年をとるのではなくて、年をいただく。年だつて、だれからって、それはたぶん神様だと思うのよね。

ときには難しいことにも アタック

よく同じ年くらいのお年寄りに会うと、「こんなに年をとってしまつて、もう生きてるかいもありません」なんておっしゃるけど、オバチャマ、そうじゃないと思うの。年齢はいただくものだから、それだけ生かされるということは、

この世で何かをしなさい、と神様がおっしゃってるのだと思うの。

だから、どんな小さなことでもいいから、何かをやってみること。いや、ときには、とっても難しいと思われることにも、しりぞみしないでアタックしてみることにーそれが生命を与えられている自分の使命だと思うのよね。

そういうふうに見えるようになったら、オバチャマ、このごろ、すつとく、何にでも興味があくし、むしろ、若いときより、ねばり強くなったみたいなの。

小森和子さん略歴

明治四十二年十一月十一日、東京・赤坂生れ。七十八歳。

旧制東京府立第三高女（現・都立駒場高校）卒業後、雑誌『婦人公論』の記者、神戸の外資系会社のOLを経て、四十歳（昭和二十四年）から映画評論家として活躍を始める。その華麗なるおしゃべりは『モア・ベター』の流行語も生み出した。現在も雑誌、テレビ、ラジオなどで活躍中。著書に『流れるままに、愛』（集英社）などがある。



⑪

伊東 美咲ちゃん

蔵・9か月

国広さんと
恵利子さんの長女

いつも気になることは、参加者の顔ぶれを見ますと一般参加者が目立ち、肝心の若い母親の姿が極めて少ないことです。確かにほとんどの母親達は就労しており、時間に追われる毎日なのかも知れません。しかし子育てをしていく場合、多かれ少なかれ、迷いや悩みが付きまとうものですし、母親ひとりが努力しても必ずしも問題解決しない事も多いのが実情ではないでしょうか。講演の話しにもありましたが、小遣いの与え方ひとつにしてもむずかしい面があることや、育児は家族各々が役割を持つ共同作業であることなど、家庭を基盤とした子育ての議論がもっと多くの場で真じめになされていくって欲しいものです。二十一世紀を担う大事な人



戸籍だより

(1/21~2/20届出・敬称略)

お誕生
おめでとう

小野沙也佳(洋子・長女) 蔵新田

小野沙織(正成子・二女) 宿

佐藤春奈(貴綾子・長女) 八日町

村上亜美(栄志子・長女) 新町

藤田玲奈(博美子・長女) 新町

小松真希子(信記子・長女) 蔵

阿部美香(貴美子・長女) 十二ノ前

佐藤直紀(透紀久子・二男) 寺田

嶽石春香(武忠子・長女) 島

ごめい福を
お祈りします

小野興四雄(61 美・夫) 寺田

大塚ヨシエ(84 忠一・母) 上通

荏野タカ(77 順一・母) 松柴

阿部重雄(51 ヨシ・夫) 岩館

石渡サキ(73 安次郎・妻) 蔵新田

小野新一(65 トメノ・夫) 宿

古関ツルエ(79 三郎・義母) 松柴

佐々木勝義(74 キミノ・夫) 大琴

編集室から

▶行政にとって3月は師走、4月は正月です。昭和62年度もあっという間に過ぎ去ろうとしており、当広報紙も12回目の発行を無事？済ませることができました。しかしこの1年、名前の間違いや誤字・脱字などもあり、読者の皆様には大変ご迷惑をおかけしましたことを深くおわびいたします。▶さて当広報担当では、新年度から心機一転を図り内容を一新しようと、新しい企画を検討中です。現在、連載もので頭を悩ましていますが、皆さんからもアイデアをお寄せいただけないでしょうか。ご連絡お待ちしております。☎69・2110・広報担当

24日・不用犬捕獲日	24日・機能訓練教室(有隣館13時)	22日・民生委員会総会(朋楽荘30分)	14日・黒淵・田代地区栄養改善講習会(住吉会館・9時)	9日・乳児健診(有隣館・13時)	8日・健康大学(有隣館・13時)	2日・献血車来町
------------	--------------------	---------------------	-----------------------------	------------------	------------------	----------

催し

善意

町民の声を町政に
町長面会日今月は19日

▼町社会福祉協議会へ・ご芳志として大塚忠一さん(上通)、小野義信さん(寺田)、阿部重樹さん(岩館)、小野武男さん(上里)よりそれぞれ金一封が▼町へ・広報紙送付の謝礼として本荘市の佐藤力雄さん(家の下出身)より一万円が届けられました。ありがとうございました。

郷土の野草



ノブドウ (ブドウ科)

③6

日本全土に自生する落葉藤本で、茎は他の樹木などにかまってのびます。葉はほぼ円形で、柄に近い方は心臓形で先のほうが3~5裂し互生します。巻きひげがあり、夏に葉に対出した花穂を出し、多数の緑色の小花をつけます。この時期に“ブドウタマバエ”が子房に産卵し成長するため、果実は不ぞろいですが、白、紫、緑、紅などの美しい実をつけます。有毒の成分はなく、ただまずいため食べません。和名の外に「ウマブドウ、ウシブドウ、イヌブドウ」など方言が多くあります。このように動物の名がついた植物は、たいてい食用にならないものと考えてよいと思います。しかし、この草の若芽は、おひたしにしますし、根は乾燥させて1日量10gを約3合の水で煮に煎じ3回に分けて服用すると関節痛によく、10gを1合の水で煎じて洗眼すると目の悪いとき効果があるといえます。(小松忠正)

町の冬二統計 2月 (1/1~1/31)

●人口()は前月比 ()は1月から累計	
・男 2,977人(△3)	●出生6人(6)
・女 3,087人(△3)	●死亡7人(7)
・計 6,064人(△6)	●転入5人(5)
●世帯数	●転出12人(12)
1,454世帯(一)	●結婚1組(1)
	●離婚0組(0)

●火災発生件数-----	1件(1)
●救急車出動件数---	7件(7)
●ゴミ処理量-----	27t (27)
●健康増進センター利用者数	1,193人(1,193)
●町営テニスコート利用者数	一人(一)
●有隣館利用者数---	635人(635)
●朋楽荘利用者数---	158人(158)
●交通事故発生件数	6件(6)
・死者-----	0人(0)
・傷者-----	0人(0)
●飲酒運転違反者---	0人(0)
●酒気帯び違反者---	0人(0)